

きょうは「大寒」。先週末からの今冬最強寒波により、日本列島は日本海側を中心に雪に覆われています。交通機関の乱れや道路の凍結などに十分ご注意ください。2017年初めてのメルマガをお届けします。

現在会員登録数 2,225 人さま。次号は2月21日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 77

《4》行って来ました！

【3】全国イベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展

当財団主催「第32回 日産 童話と絵本のグランプリ」（平成27年度実施）の入賞作品の原画展を開催しています。3月上旬に予定しています第33回（平成28年度実施）グランプリの発表後は、新しい入賞作品の原画に展示替えします。

日 時：開催中～3月28日（火）＊ただし、国際児童文学館の開館日時

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

入場料：無料

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『スピニー通りの秘密の絵』 ローラ・マークス・フィッツジェラルド/著
千葉茂樹/訳 あすなろ書房 2016年11月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：ニューヨークに住む13歳のセオは祖父のジャックが死んでしまい、家に引きこもっている母と二人暮らし。ジャックが死ぬ間に遺した「卵の下だ」という言葉の謎を家にあった卵が描かれている絵だと解釈し、たまたま知り合ったボーディという少女と謎解きを行う。そして、その絵の作者や戦争中にジャックが手に入れた経緯などが明らかになっていく。

T：今、日本で模索されている「新しい戦争児童文学」の優れた例だと思って読みました。家にあった絵のことを調べていたら戦争体験にぶつかり、ナチスのユダヤ人虐殺や芸術作品の略奪と関わっていく。

Y：絵の調査はインターネットだけでなく、図書館を使ったり、司書と友だちになってレファレンスを活用したり、祖父の旧友にインタビューしたり、その手法のおもしろさが具体的に描かれています。

T：謎解きの過程は『クローディアの秘密』（E.L. カニグズバーグ/著 岩波少年文庫）を思い出しました。卵の絵の下に本当の絵があってX線をかけるとその下にまだ絵がある。科学的な調査で絵の下の下、つまり、歴史の下の下まで掘り下げることができる。

Y：セオとボーディーの飽くなき好奇心のなせる業ともいえ、若い世代が歴史を掘り下げ続けることの重要性が描かれているとも言えます。そして、ジャックの願いは自分で完了できなかった謎を解き明かすこと。ナチスの戦争問題は未だ終わっておらず、その責任は若い世代にも引き継がれるということが書かれていると思いました。

T：と語っていると、重いテーマだと思われるにもかかわらず、とても読みやすくおもしろい。そこが、「新しい戦争児童文学」と呼びたいところ です。

Y：他にも、セオの母親に生活力がなく、二人は貧困状況にあるということに現代の社会的な問題が描かれていると思いました。

T：ボーディーはセレブなタレント夫婦の孤独な子どもでセオとの対比が効いています。周りの大人たちも個性が際立っており、その点も読みやすさにつながっていると思いました。そして、結末は少しあっけなくは思いました。

Y：セオとボーディーが絵について学んでいく過程で読者もルネッサンス期の絵画に興味を持てるようになっています。絵の図像を読み解くなどのおもしろさもあります。元のタイトルは「Under the Egg」（卵の下）です。卵という「生命の元」の下に描かれた「死」という意味でも象徴的なタイトルだと思いました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第17回「とっこべとら子」

民話的な構図を用いた〈リアル〉

〈おとら狐のはなしは、どなたもよくご存じでしょう。おとら狐にも、いろいろあったのでしょうか、私の知っているのは、「とっこべ、とら子。」と

いうのです。)

賢治の童話には、たくさんの動物が登場します。

前々回（本メルマガ NO. 75 参照）、前回（同 NO. 76）にて取り上げた「雪渡り」の狐もその一つ。「雪渡り」には、〈きつねが人をだますなんて偽〉〈だまされたという人は大抵お酒に酔ったり、臆病でくるくるしたりした人〉で、〈私らは全体いまままで人をだますなんてあんまりむじつの罪をきせられていたのです〉とあります。つまり、狐にだまされるのは人間の側に問題があるという立場。人をだまさない狐、純真無垢な狐というイメージは、民話などに登場する一般的な狐のそれを反転させています。

一方、民話的な「とっこべとら子」に登場する〈おとら狐〉は、人間を化かす狐として描かれています。

作品では、狐に化かされる二つの話が語られます。一つは、欲の深い金貸しの六平が酔って帰宅途中、川岸で侍に化けた狐に千両箱を預けられ持ち帰るが、実はそれは砂利俵であったというもの。もう一つは、村会議員になった平右衛門の祝宴の帰り際、酔った客らが門前にいた白狐を怖がって大騒動になるというものです。この白狐は、客の一人がふざけて立てた疫病除けの「源の大将」を身代りに逃げました。

基本的な民話の構図を下敷きに、化かされる人間を戯画的に描いている作品であり、欲深であることや権威・権力志向への諷刺と言えます。

ところで、話者が登場して〈こんな話は一体ほんとうでしょうか〉〈多分偽ではないでしょうか〉〈それがうそなことは疑もなにもありません〉と語ることで、〈一步だけこの話は現実に近いところで展開するし〉、〈リアル〉なものになっていると指摘するのは池澤夏樹氏です（角川文庫『風の又三郎』解説）。

話者によってもたらされた〈現実〉や〈リアル〉。そこには、生家の家業（質屋）や実父の社会的身分（町会議員）が投影されているようにもみえます。一般に広く知られていたとされる〈おとら狐〉の話を用いながら、賢治ならではの視点が組み込まれた作品、といえるのではないのでしょうか。（ペ吉）（本文の引用は、角川文庫版『風の又三郎』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 77

その10 学校でのおはなし会（9）シリアスなテーマの本を読む時

ボランティアの方からよく受ける相談に、子どもの心の問題に関わるテーマの絵本を読みたいがどうか、というものがあります。このテーマの例としては家族の死、親の離婚、いじめなどが挙げられます。

まずは、どんな絵本を選ぶかということが重要です。中にはメッセージを言葉で説明してしまったり、道徳的だったり、観念的だったりする絵本があります。一方で、「死」や「いじめ」というテーマを読者に深く考えさせるよ

うな、何度読んでも新しい発見がある絵本もあります。読み手（ボランティア）が何かを教え込むのではなく、絵本を通して一緒に考えられるような本であるかということが大切だと思います。

次に、受け手側の問題です。例えば、母親の死を描いた作品を読む場合、直近に母親の死を体験した子どもがいる場合は、その子が作品を受け止められるかどうかは、日常接していない者にはなかなかわかりません。

だから読まないのではなく、事前に先生に確認したり相談したりすることによって、読むかどうかを判断することができます。直近に母親を亡くした子どもがいるからこそ、ぜひ、読んで欲しいと言われる先生もおられると思います。そういう先生は読んだ後のフォローを先生がされることがわかりますので、安心して読むことができますと思います。

* 次号は「その 10 学校でのおはなし会（10）」の予定です。
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。（Y）

《4》 行って来ました！

京都国際マンガミュージアムで2月5日まで開催されている「LOVE りぼん FURUKU 250万乙女集合！りぼんのふろく展」に行ってきました。少女マンガ誌「りぼん」の付録、付録の原画、雑誌など2000点以上が展示されています。

「戦前～60年代－ふろく前史と『りぼん』黎明期」、「70年代－乙女ちっくまんがとふろく」、「80年代－ナンバーワン少女マンガ誌へ」、「90年代－史上最高部数225万部を達成！」、「ゼロ世代へ－紙ものからモノものふろくへ」というテーマで年代ごとに展示され、その時代の特徴などの解説がついています。

展示はすごろくや髪飾り、ブローチなど戦前の少女雑誌の付録から始まります。当時、付録には規制があったため、1955年の「りぼん」創刊から2001年までは、主に別冊付録やクラフトなどの「紙もの」でした。その中でできる限りの知恵を絞って作られていたことがよくわかります。香りつきのシールや数々のおしゃれグッズ、マガジンラックや小箱など、組み立て付録は組み立ててきれいに並べられていて、付録につられて買ったあの頃の気持ちが甦ってきました。

付録用に描かれた原画とその付録が並べられているコーナーでは、付録の形状に合わせて、絵が丁寧に描かれているのがわかります。新年の手帳、8月のトランプ、3月のひな飾りなど、毎年定番の付録を見比べると楽しく、数々のレターセットは携帯電話のない時代には大事なツールだったなあと懐かしく思い出しました。

付録の他にも、切手などを送って応募する「応募者全員サービス」のドライバーや電話機なども展示されていました。掲示されているたくさんの来館者メッセージには、子どもから大人まで、それぞれの思い入れが感じられました。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 企画展「絵本はここから始まったーウォルター・クレインの本の仕事」

会 期：2月4日（土）～3月26日（日）休館日あり

会 場：滋賀県立近代美術館（大津市瀬田南大萱町）

入場料：有料

◇ 記念講演会：「ウォルター・クレインの絵本

ーヴィクトリア時代に現代の絵本の源流をたどるー」

講 師：正置友子（絵本学研究所主宰）

日 時：2月12日（日）午後1時30分～3時

会 場：同館 講堂

定 員：180名（当日先着順、申込み不要）

参加費：無料

主 催：滋賀県立近代美術館 / 京都新聞 / BBCびわ湖放送

● 大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラム

「本を読みたい！」って子どもが感じるためにー

全体フォーラム 講演「読むこと、書くこと、生きること」

講 師：富安陽子（児童文学作家）

日 時：2月8日（水）午前10時30分～12時30分

場 所：エル・おおさか（大阪府中央区北浜東）

定 員：800名 申込み：必要

参加費：無料

主 催：大阪府教育庁 市町村教育室地域教育振興課

● 大阪府子ども文庫連絡会 公開講座

やっぱり図書館が大事 Part25「家庭文庫から始まる図書館支援」

講 師：草谷桂子（トモエ文庫主宰、元静岡県立図書館協議会委員）

日 時：2月14日（火）午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会

会 場：大阪市立中央図書館 5階会議室（大阪市西区北堀江）

定 員：250人 交流会は60人（当日先着順、申込み不要）

参加費：無料 資料費：100円

主 催：大阪府子ども文庫連絡会 / 大阪市立中央図書館

● 児童文学講演会

「『フランダースの犬』をめぐって

ー日本・ベルギー・アメリカでどう読まれてきたか」

講 師：野坂悦子（オランダ語児童書・絵本の翻訳家）

日 時：2月19日（日）午後2時～3時30分

会 場：みよし市図書館学習交流プラザ「サンライズ」（愛知県みよし市）

定 員：80名（申込先着順）

参加費：無料

申込み：1月24日（火）から受付

主 催：みよし市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報について

